紛争に関するもの

首切場にまつわる話

《長　沼》

ウルイ原南無法蓮華経の供養碑の建っている所が長沼領の首切場で、罪人のしおき場であった。

幕末の頃、長沼領袋田の里の庄屋と部落民の間に争いが起こり、千左エ門という人が、部落民に迷惑のかかるをおそれ、罪を一身に引受け、取調べをうけ、庄屋の非を訴えたがいれられず、本陣のある長沼で処刑されることになった。

首切場には人の入れる身丈ほどの穴が掘られ、周りには、竹矢来がめぐらされた。当日千左エ門は長子とともに町中引廻しの上刑場にむかったが、バクタレ馬の代掻鞍に乗せられた千左エ門を見て、目を伏せないものはなかったという。

引廻しの後、衆人の見まもる中で十六才の長子とともに首を切り落された。千左エ門の辞世として、

ウルイ原供養碑